

野菜の展望

朝晩の冷え込みも厳しくなり、秋冬野菜の本格的な出回りシーズンを迎えます。今月の野菜は夏期の高温・干ばつから一変、全国的に台風の影響、降雨や冷え込みもあり、一部の品目では上旬まで不安定な入荷となりますが、中旬以降は生育の回復とともに潤沢な入荷を予想しています。

根菜類の大根は主力の石川産が前半で終了し、後半からは千葉産の入荷に移行します。生育良好で安定した出回りになると見られ、平年並みの価格帯となりそうです。人参は北海道・青森産(高冷地物)が上旬で終了し、石川・岐阜産へと移行していきませんが、生育遅れが懸念されます。蓮根は石川・徳島・愛知産の入荷で本年は太物中心となります。甘藷は石川産中心に茨城産の入荷で、県内産の掘り込み作業も上旬で終了となり、それ以降は安定した出荷が見込めます。

果菜類ですが、胡瓜は高知産主力に群馬・石川産、下旬からは愛知産が加わり、前年並みの入荷と見られます。南瓜は北海道産が終盤を迎え、中旬より石川産の抑制物が出回ります。輸入品はトンガ、及びニュージーランド産の入荷となります。茄子類では中茄子が高知産を主力として愛知産の入荷になります。長茄子は熊本からの入荷です。トマトは愛知産主力に石川・岐阜産の入荷です。愛知産は生育遅れも解消され、前年をかなり上回る入荷が見込まれます。ミニトマトは愛知産主力に石川・静岡産の入荷です。愛知産についてはトマト同様に前年を上回る入荷が予想されます。ピーマンは高知・鹿児島産主力に茨城産で平年並みの入荷が見込まれます。

葉茎菜類の白菜は長野産が上旬で終了し、その後は茨城産の入荷を予定しています。県内産は穴水・松任地区から入荷し、生育は順調と見られます。キャベツは愛知産主体に石川・茨城産の入荷で、台風の影響も懸念されますが、概ね順調な入荷が見込まれます。葱は石川産主力に群馬・埼玉産の入荷です。埼玉・群馬産は長雨の影響から生育不良が見られ、不安定な入荷となります。ほうれん草は岐阜産(飛騨)に加え、石川・群馬産と併せて入荷増が期待されます。また下旬より九州産も加わる予定です。小松菜は県内産主力に岐阜・静岡・群馬・愛知からの順調な入荷となります。レタスは長野産が終了し、兵庫産(淡路島)主力に茨城産の入荷で、概ね順調な出回りが見込まれます。ブロッコリーは10月に遅れ気味であった石川産の3農協(JA加賀・JAすずし・JA白山)からの入荷が上旬から中旬にかけてピークを迎えます。しかし、全体的な生育不良が影響して大きな山はない見込みです。下旬には愛知・大阪産が加わり、かなりの入荷増が期待されます。

菌茸類の椎茸は石川産菌床物主力に若干の露地原木物の入荷で、不足分は徳島・群馬産で補います。なめこは菌床物に加え原木物の入荷がピークを迎えます。えのき・しめじ・まいたけ等も需要期を迎えてフル生産となり、順調な出回りを予想しています。松茸は石川産が中旬で終了し、中国・韓国・米国産中心の入荷となり、平年をやや下回る入荷が予想されます。

土物類の馬鈴薯・玉ねぎは蔵入れが終了していますが、貯蔵量・出回り量ともに順調で平年並みの入荷が見込まれ、前年をかなり下回る価格帯となりそうです。長芋は北海道・青森産ともに新物に切り替わる端境期で、中旬までは入荷減が予想されます。牛蒡は青森産主力に北海道産の入荷です。特に青森産は天候に恵まれて順調な入荷が予想されます。

11月は、各種のイベントに併せ、多彩な販売企画立案の上、販売拡大にご協力をお願いいたします。

《野菜第一部 田中 昭市》

果実の展望

秋冬果実が一段と旨味を増し、最盛期を迎える時期となりました。今月の果実は主力品目であるみかんが表年にあたりますが、5月の日照不足と降雨の影響があり生産量は伸びていません。また、りんご・柿など秋冬果実全般に猛暑の影響が見られ、昨年より少ない入荷が見込まれています。内容については、全般に小玉傾向ながらも、例年以上に食味の良い果実に仕上がっています。

みかんは極早生みかんから早生みかんへの切り替えの時期に入ります。福岡・長崎・和歌山・愛媛など、本年は表年ですが隔年差是正の出荷調整により、裏年の昨年と比較して、やや多い程度だと思われます。玉流れはM玉中心になると予想されますが、L以上の大玉もそれなりにあり、糖度は高く仕上りの良いみかんとなっております。

柿については能登町・かほく市を中心に金沢近郊の内川・浅川地区等から、さわし柿・渋柿・甘柿の入荷となります。和歌山産の平核無柿は中旬で販売終了し、その後は、福岡・岐阜・奈良産の富有柿の販売予定となります。愛知産の次郎柿については、台風の影響により生理落下があり、入荷減少が見込まれます。

りんごはふじの出荷が本格化する時期に入りますが、他にジョナゴールド・王林・紅玉といった品種も加わり、青森・長野・山形等の各産地から出回ります。

瓜類では静岡産のマスクメロンや、熊本・高知産のアールスメロン等の作付面積が減少しており入荷減となる見込みです。

莓は愛知産中心の入荷で、中旬以降より順調な出荷が見込まれます。

洋梨は山形産のラ・フランス中心の入荷で、16玉・18玉の大玉中心ですが、昨年よりは若干少なめの入荷が予想されます。

輸入果実のバナナはフィリピン産中心に南米産の入荷です。各産地ともに順調な入荷が予定されています。価格についても昨年並みで推移するものと思われます。オレンジはオーストラリア産・バレンシア種が入荷の柱となりますが、72玉、88玉、113玉の小玉中心の玉流れと予想されます。カリフォルニア産のネーブル種は生育の遅れにより、12月に入荷がずれ込む可能性があります。グレープフルーツはフロリダ産のルビー・ホワイト種が中心となります。青系はカリフォルニア産のオロブランコの販売。下旬よりイスラエル産・スィーティの入荷が見込まれ、どちらも順調な出回りが期待できます。レモンはカリフォルニア産の販売で安定した入荷が見込まれます。生パインはフィリピン産のゴールデンパイン・スィーティオ種の順調な入荷が予想されます。キウイフルーツは、ニュージーランド産の販売で、入船は中旬で終了するものの、11月一杯は販売可能と思われます。その他、パイアヤ・アボカド・マンゴー・ザクロ・カルフォルニア産レッドグローブ等が順調に入荷致します。

以上、今月も尚一層の拡販を宜しくお願い致します。

《果実部 大西 信哉》